

次の共同課題

について

中野 卓

農家人口——特に滞在失業人口を、家族を
枠としてその枠内で、できるだけ精密にとら
えること、という方針に賛成。

基本的な調査項目を論議決定して調査実施
に先立って周知し、各人の研究計画の中にそ
れを最少限組み入れることにより比較可能な共
通の足がかりを構つことが必要。

現住世帯員だけでなく、先代当主の兄弟姉
妹、現当主のそれ、現当主の子のそれについ
て、死去・嫁出・買出・分家出・出家等の人
々を広く調べて調査すること。

農業経営における作業分担を現住世帯員に
ついて個人ごとに明確にとらえること。その

ため季節ごとの変化も、農業経営者の場合の未
農業従事世帯員が農閑期に休んだりして農作
業に従事する状況をもれなくとらえること。
家事従事者、学生等についても同様のこと。
このような労力の詳細な組み合わせとその変
化を客観化してとらえるために、研究通信紙
上で予め、季節毎にありうるべきあらゆる作業
の種類・名数を列挙するなど、労力構成を
把握するための標準案を検討完成すること。
(このため至急、大内力氏あたりから原案を
だして頂けると幸いである)

現在(過去一ケ年)のそれだけでなく、さ
かのほつて、戦時中、戦前(夫々年を明示)
等についても同様労力構成を調査する。他
家へ、また他家よりの被働労力についても。
経営面積(作付内容別)、所有面積、収穫・
収入、それらの変化については勿論である。
通勤或は自宅における兼業・副業について
も調査項目を配慮する。また在学中の者につ
いては、将来の就業予定(農・非農)にも及
ぶ。他出、或は非農的経歴ある農業従事世帯
員についてはその事情をさかのほつて明らか
にする。

何を以て「滞在失業人口」とみるか、どの
程度「滞在失業」を含む職業であるかは、
多分に相対的なものでして量的な微妙な問題であ
ろうが、できるだけ客観的な基準を以て経営
・労力力のくみあわせを標準化された仕方
でとらえることから始めるほかない。

その上で、家の中の人同關係の具体的な質
的ありかた、また意識・態度面に及ぶ。
相統者と非相統者、相統者と、これとの統
柄が、各人の経歴、作業分担力また分担の意

向と、どのような関連を持つて、実際の経歴
内における役割・地位を各人に与えているか。
その過不足や適不適が、どのように処理され
ているか。それがどのような問題を家の中に
生じているか、そして家の外へ反んでゆく
としていくか。

当面の問題として各人に希望され目ざされ
ている生活水準がいかなるものであるか、今
は実際にはどうであるか、前者を基準にして
後者とのズレが、各家の経歴と労力構成と
のいかなる関連から生じているか。こんなこ
とも調査されたいななと思ふ。(生活水準の
向題まで及ぶのは困難でしょうか。そうしな
いで、「滞在失業」を「滞在失業」だと言っ
こともできにくいように思いますがどうでし
ようか。)

以上、意見の萌芽にはじまり表示の趣意に
終るていたらくであります。

(東京教育大学)